



え/ひじ みえ

# み教えの言葉を学ぶ⑩

## 二種深信

### 浄土真宗の救いを示す

浄土真宗のみ教えを伝えるためのキーワード、「信心正因」「称名報恩」「二種深信」について解説します。筆者は、本願寺派総合研究所の満井秀城副所長です。今号は「二種深信」です。

#### 二種深信は一つの信心を機法の両面から表現

「二種深信」は、浄土真宗にとってとても重要な概念です。詳しくは後述しますが、浄土真宗の信心が「機」と「法」の二つに分かれています。浄土真宗の信心は「二種深信」を立って初めてと判る場合が多いのです。

「二種」とは、「機」と「法」に分かれています。「機」(阿彌陀仏の救いのほたらき)の二種で、「深信」とは、「深へ信じる」ことです。善導大師の『観経疏』にあり、『観経』の三心(至誠心・深信心・廻向発願心)の内「深信」を釈す中に「機」と「法」との両面における「深信」の相が示されています。

まず「機の深信」とは、  
自身は現にこれ罪悪生死の凡夫、曠劫よりのかたつねに没しつねに流

転じて、出離の縁あることなし」と信じてのこと。すなわち、自らは、現在迷いの凡夫であるだけでなく、いつから迷い始めたかがわからないうらい永い間、迷い続け、そこから抜け出すことができない身と深く知られること、つまり、自分自身の本来の姿に気づかされることです。

次に「法の深信」とは、  
かの阿彌陀仏の、四十八願は衆生を攝受したまふこと、疑なく、慮りなくかの願力に乗じてきたため往生を得

と信じてのこと。すなわち、先のような私を救おうとお建へたさった阿彌陀仏の四十八願なので、その願力によって必ず往生できることを深く知られることです。

つまり、機法二種の深信とは、私の救いを考えるにあたって、「機の側」と「法の側」と両面での表現ということになります。迷いから抜け出し得ない私(機)がいるから四十八願が建てられ(法)、阿彌陀仏の救い(法)にすべてまかせる身においては、私の力は何も役に立たない(機)のです。

ここで注意しなければならないのは、「機」の深信と、「法」の深信が、どちらかが先で、どちらかが後という、前後関係ではないということです。自らの罪の深さを思い詰めてから、そこで初めて阿彌陀仏の救いが喜べるというものではありません。これだと、罪悪感という自らの心づかりが、信心の前提条件になってしまう。「機」を信じて、「法」を信じて、その二つは「機」と「法」の両面での表現ですから、これを古来、「二種一具」(この二つは一つのもの)と称してきます。

#### 浄土真宗は二種深信

##### さまざまな問題の正体が見える

かつて、「浄土は、ふるさとです」と主張する高名な人がいました(名前は控えますが、本願寺関係者ではありません)。最初聞いた時は、「浄土は親さまの世界だから、私たちにどうして、ふるさとです」というくらいの内容かと思っていたら、全然違っていました。「私たちがみな、浄土から、この世に遊びに来たのです。だって例えば『正信偈』にも『遊嬉憺林現神通』とあるでしょう」というものでした。みなさんは、どう思いますか。

満井 秀城



本願寺派総合研究所副所長

か。「なるほどな」と感心してはいけません。こうなったら、浄土真宗の信心ではありません。

これが、最初に申しました、「二種深信」が成立しているかどうかを当てるには、浄土真宗かどうかが判るという一例です。

「私は、浄土から、この世に遊びに来た」のなら、「機の深信」が成立しません。「自らは、永い間、迷い続けた」という「法の深信」と矛盾します。そして「浄土からやって来たので、故郷においても浄土に帰る」のなら、阿彌陀仏の本願には用事がないことになります。つまり、「法の深信」も成立しないのです。また、次のような問いを考えみて下さい。「浄土真宗では、どうして『般若心経』を読まないのですか。これも仏説でしょう」。

『般若心経』の内容は、自らの智慧(般若)を磨いて、さとりを得ようとする教です。自分で智慧を磨いてさとりを目指す方は、自らの側に「出離の縁はない」とする「機の深信」に違背します。そして、自分の智慧や能力に自信を持っていきますから、阿彌陀仏の願力にまかせる思いがありません。すなわち、「法の深信」がないのです。

私が若かったころにさまざまな問題が、「二種深信」に当てはめることで、その正体が見えてくることに気づきました。これは、大発見だ。論文にでもしてみよう」と小躍りしたことがあります。しかし、大発見でも何でもありません。程なくして、そのことに気づきました。

親鸞聖人には、  
衆生、仏願の生起本末を聞きて疑心あることなし、これを聞といふなり

とのお言葉があります。「私たちは何を聞くのか」について、「仏願の生起」とは、「なぜ阿彌陀仏が本願を建てられたか」です。迷っている私がいるから(機の深信)ということになります。「仏願の本末」とは、「このような私を救うために願を建てられ(本)、救いの法としての名号法を仕上げられた(末)」(こと法の深信)を聞くのです。800年も前に、すでに親鸞聖人が発見されておられたのでした。

第23回全国伝統的工芸品仏壇仏具展  
経済産業省製造産業局長賞受賞 全国第2位

伝統的工芸品宗仏壇宗仏具製造元  
**まるさん**  
株式会社 丸三仏壇店

【仏具屋町本店】  
京都府下京区仏具屋町 214  
電話番号 075-371-1626

satsumaya  
KYOTO

御本山御用達 開明社々員 京法衣事業協同組合加盟

株式会社 さつま屋法衣店  
〒600-8334 京都市下京区油小路通六条下ル  
TEL 075-351-1548(内) FAX 075-351-1008  
☎ 0120-310-063

西本願寺の本  
仏教書フェア

本願寺出版社

～7/10(金)まで  
**紀伊國屋書店**  
新宿本店  
東京都新宿区新宿3丁目17番7号  
※開催期間を延長する場合があります。

～6/30(火)まで  
**ジュンク堂書店**  
近鉄あべのハルカス店  
大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目1-43  
あべのハルカス近鉄本店ウイング館7F

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、十分にご注意のうえ、仏教書フェアにお越しください。

巻頭インタビュー

御堂さん  
**MIDO san**  
8月号 2020 お盆読本

元構網・稀勢の里 **荒磯親方**  
仏教をわかりやすく伝える月刊誌

特集②  
『原爆供養塔 忘れられない遺骨の70年』の著者でノンフィクション作家の堀川恵子さんのお話です。

特集①  
『コロナエゴ』

**餓鬼道に進む**

非常時になると、普段は隠されていた人間の本性が露わになります。今回も人の心に潜む餓鬼が、姿を見せました。

磯野真穂 近藤勝重  
吉川美代子 森永卓郎  
餓鬼草紙物語 廣瀬俊  
真宗大谷派僧侶

お盆法話 松田正典  
広島大学名誉教授・理学博士

ニッポンのはたらく人たちは  
写真家 杉山雅彦

その他、マンガ・川柳・豪華景品が当たるパズルなど、盛りだくさんの40ページ!!

インターネットからもご注文いただけます。 御堂さん 北御堂 検索

御堂さん編集部 (本願寺津村別院内)  
〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-3  
E-mail: midosan-koudoku@kitamido.or.jp TEL: 06-6261-6796/FAX: 06-6261-6828